

各関係機関の長 様

滋賀県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報(特殊報第1号)について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

平成21年度 病虫害発生予察特殊報第1号

平成21年(2009年)9月15日  
滋 賀 県

1. 病虫害名: イチジクヒトリモドキ *Asota ficus* (Fabricius)
2. 作物名 イチジク
3. 発生経過
  - (1) 平成21年9月にイチジクで発生していたチョウ目幼虫が持ち込まれた。本県では未確認のイチジクヒトリモドキであることが疑われたため、すでに発生の報告がある大阪府の病虫害防除所に同定を依頼した結果、本種であることが確認された。
  - (2) 本種は、沖縄県以南では土着とされ、本州では中国四国地方を中心に11府県で発生の報告があり、近畿地方では兵庫、大阪、和歌山の各府県で発生の報告がある。
4. 形態

卵は淡黄色で直径約0.9mmのまんじゅう型をしており、葉裏に10~30個の卵塊として産み付けられる。

若齢~中齢幼虫は、胴部背面が全体に白っぽく、頭部は黒色、体の側面は橙(だいだい)色である。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部はつやのある黒色、胴部背面は灰色がかった黒色で、腹面は橙黄(とうおう)色を呈する。刺毛基部は橙黄(とうおう)色で、刺毛基部からは白く長い刺毛が1本ずつ生える(下図)。

成虫は、前翅(ぜんし)が褐色の地色に橙黄(とうおう)色、黒色、白色の斑紋(はんもん)、後翅(こうし)は黄色の地色に黒色の斑紋(はんもん)を有する蛾(が)である。



図 イチジクヒトリモドキ幼虫

## 5. 生態

本種はヤガ科ヒトリモドキ亜科に属する南方系の蛾（が）である。卵は若い葉の裏に卵塊として産卵され、若齢～中齢幼虫（体長約20mmまで）は主に葉裏に群棲（ぐんせい）し食害するが、成育が進むにつれて分散し、葉表にも生息するようになる。幼虫は老熟すると地表に降り、樹から20cmまでの範囲で土中の浅いところで土繭を作って蛹化（ようか）する。本種は蛹（さなぎ）で越冬し、年間4世代を経過すると推定されている。蛹（さなぎ）から羽化した成虫は、昼間は葉裏に生息し夜間行動する。

## 6. 被害の特徴

若齢では葉裏から表皮を残して食害するため、葉脈間に白い膜が残る。中～終齢になると太い葉脈を残し葉のほとんどを食い尽くすため、葉がうちわの骨ようになる。また、葉が少なくなると果皮も食害する。

## 7. 寄主作物

クワ科イチジク属のイチジク、イヌビワ、オオイタビが報告されている。また、イタビカズラ、ギランイヌビワ、ガジュマル、インドゴムノキ、インドボダイジュも摂食すると報告されている。

## 8. 防除対策

（1）幼虫は若齢～中齢幼虫の間は群棲（ぐんせい）して加害するため、幼虫が分散する前に寄生葉を取り除いて処分する。

（2）発生初期に次の農薬散布を散布する。

○アディオン乳剤 3000倍液（収穫前日、2回以内）

○モスピラン水溶剤 2000倍液（収穫前日、3回以内）

※登録内容は平成21年9月14日現在

滋賀県病虫害防除所

<http://www.pref.shiga.jp/g/byogai chu/>

滋賀県蒲生郡安土町大中516

TEL:0748-46-4926・6160

FAX:0748-46-5559

Email:GC70@pref.shiga.lg.jp